

## 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名： 藤田医科大学病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。(2021年5月1日現在)

## 1. 病院の機能及び医師等の配置

項目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕吸入薬指導に習熟した薬剤師2名、アレルギー研修会を受講した看護師32名 アレルギー勉強会等に参加している管理栄養士1名	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数	うち指導医数
内科	18	5	3
小児科	6	2	0
皮膚科	5	2	1
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	4	2	1

## 2. アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

	実績(令和2年度)			今後の予定(令和3年度)			
	診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容	
情報提供	講演会等	内科	医師、看護師、薬剤師、学生	Scientific Exchange meeting in Tokai 2020 (重症喘息について)web開催	内科	医師、看護師、薬剤師、学生	今後もwebあるいはハイブリッドなど形を検討しながら進めていきたい
		皮膚科	医師	第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会	小児科	一般市民	名古屋市ぜんそく児のための水泳教室での講演
		耳鼻咽喉科	近隣開業医	病診連携の会(2回/年、30名程度) 抗抗体製剤についての説明	耳鼻咽喉科	近隣開業医	病診連携の会(2回/年、30名程度) 免疫療法、抗抗体製剤について
	他	内科	一般住民	ホームページ上で1)重症喘息に対する気管支サーモプラスティの研究 2)気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギーに関する情報提供を行っている	内科	一般住民	ホームページ上で1)重症喘息に対する気管支サーモプラスティの研究 2)気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギーに関する情報提供を行っており、これを継続していく予定である
		内科	一般住民	アレルギー研修会 (アレルギー全般の研修会をハイブリッドで行った)	耳鼻咽喉科	アレルギー研究会	好酸球性副鼻腔炎の抗抗体製剤について(1回/年)
		小児科	一般市民	名古屋市と協力し喘息教育の動画作製と配信	小児科	一般市民	名古屋市と協力し喘息教育の動画などの作製
人材育成	研修会等	内科	医師	アレルギーに興味のある医師を対象に月に1回程度で勉強会を行っている	内科	医師	アレルギーに興味のある医師を対象に月に1回程度で勉強会を行っており継続していく。
		内科	研修医	月に2回程度、免疫学の教科書を一緒に読み知識の向上を図っている	内科	学生、研修医	月に2回程度、免疫学の教科書を一緒に読み知識の向上を図り育成していく
		小児科	教員	エビベン講習会(3回、82名)	小児科	教員	エビベン講習会(10回、200名)
		眼科	看護師	アトピー性皮膚炎ベースの網膜剥離術後患者に対するシ-ネ指導(不定期、年数回)			

	皮膚科	医師	アトピー性皮膚炎ガイドラインの概要			
助言 指導	内科	名古屋市 愛知県	名古屋市公害認定審査会の委員 愛知県公害認定審査会の委員	内科	名古屋市 愛知県	名古屋市公害認定審査会の委員 愛知県公害認定審査会の委員
	小児科	一般市民	名古屋市緑保健センターでのアレルギー相談（年5回）	小児科	一般市民	名古屋市緑保健センターでのアレルギー相談（年6回）
	耳鼻咽喉科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供 花粉飛散数予測についての助言	耳鼻咽喉科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供 花粉飛散数予測についての助言

### 3. アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実績（令和2年度）	今後の予定（令和3年度）
診療	<p><b>【内科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気管支喘息の重責発作の症例においても救急外来を經由し集中治療室にて入院加療を行い、重篤な場合でも迅速に対応している。</li> <li>・アスピリン喘息症例で薬剤の誤投与が本年も認めれたが、薬剤部と連携し、今後、極力生じないように対策を検討した。</li> <li>・重症喘息患者症で気管支サーモプラスティや生物学的注射製剤を使用する場合はカンファレンスを行い適切な治療法を検討している</li> <li>・間質性肺炎（びまん性肺疾患）では可能な限り、病態についてカンファレンスを行い、今後の方針、治療法などに関し検討している</li> <li>・食物運動誘発アナフィラキシーに関して皮膚科と相談しながら診療している</li> <li>・気管支喘息は耳鼻科的合併症が多いため、耳鼻科と相談しながら診療している</li> </ul> <p><b>【小児科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ渦においても、入院や外来での食物経口負荷試験数を積極的に進め、食事指導にて患者の食生活のレベルの改善させるように治療を進めている。</li> </ul> <p><b>【耳鼻咽喉科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー外来にてアレルギー免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール</li> </ul> <p><b>【眼科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眼科アレルギー疾患に精通した医師を外来診療に招き、アレルギー疾患患者を診療した。</li> <li>・アトピー性皮膚炎がベースにある重症の緑内障患者や視神経炎患者を皮膚科と連携して診療を行なった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も 救急部と連携し診療にあたっていく。</li> <li>・アスピリン喘息における誤投与が生じた症例を蓄積していき解析する予定である。</li> <li>・今後も継続予定である。</li> <li>・間質性肺炎（びまん性肺疾患）においてデータを蓄積し解析を行っていく。</li> <li>・今後も他科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療をおこなっていく。</li> <li>・重症な食物アレルギーの児に対して、加工品や少量のアレルゲンを含む食品を用いた治療を行うことで、患者やその家族の食生活の改善を目指すべく努力する。</li> <li>・今後も継続予定である。</li> <li>・今後も継続で診療を行う予定である。</li> </ul>
研究	<p><b>【内科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間質性肺炎（びまん性肺疾患）の臨床背景、画像、病理学的検討</li> <li>・重症喘息で施行される気管支サーモプラスティにおける治療前後の呼吸機能の変化および喘息関連メディエーターの変動の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続予定である。</li> <li>・今後も継続予定である。</li> </ul>

<p>・セレコックスによるアスピリン喘息患者における誘発例を論文報告した。(Allergol Int. 2020 Dec accept.in press) (IF:4.806)</p> <p>・ANCA 関連血管炎に関する肺線維症に関する研究を行っている。</p> <p>・当院では気管支サーモプラスティを施行しており、「低肺機能症例に施行した気管支熱形成術 (BT) の検討」というタイトルでアレルギーの臨床に投稿した。</p> <p><b>【皮膚科】</b></p> <p>・PACI ON study (他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター)</p> <p><b>【小児科】</b></p> <p>・魚アレルギーの治療や鶏卵アレルギーの予防に関する特定臨床研究を進めている。新規アレルギー検査の EXiLE 法を用いたアレルギー診断の準備ができつつある。</p> <p><b>【耳鼻咽喉科】</b></p> <p>・スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状スギ花粉症におけるオマリズマブ (商品名：ゾレア R) の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－</p> <p><b>【眼科】</b></p> <p>総合アレルギーセンターにおける眼科の役割。 第 3 回日本アレルギー学会学術集会 ワークショップ 3「総合アレルギーセンターと眼科専門医をとりまく課題」; Web 開催. 2020.12.5. (海外医学情報) アトピー性皮膚炎への dupilumab(DupixentR)による治療中に生じる結膜炎。 日本の眼科 91(3): 326-327, 2020. 総合アレルギーセンター と新型コロナ. 愛知県眼科医会会報 No.734, 2020.</p>	<p>・2021 年 6 月に新たなデータを報告予定である。</p> <p>・2021 年 4 月号掲載予定である。</p> <p>・魚アレルギー治療と鶏卵アレルギーの予防に関する特定臨床研究を引き続き検討する。各アレルギーで食物アレルギーの診断法として好塩基球活性化試験と比較し EXiLE 法の有用性を証明していく。</p> <p>・学会発表を通じて情報発信と、アレルギー疾患に対する理解をさらに深めてゆく。</p>
---	--

#### 4. アレルギー疾患に関する特記事項 (独自の取り組み)

- ・当院ではすべての科で軽症から集中治療質管理が必要な症例を 24 時間体制で受け入れており、これを継続することで県民の生活の質の向上を図っていく
- ・当院では内科系、外科系、放射線科、病理診断科、基礎医学系との定期的なカンファレンスを行っており、診療科を横断してアレルギー・免疫に関する知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく
- ・地域の病院や他の拠点病院と連携しつつ、県内全域の医師や医療従事者に対しての人材育成を引き続き行っていく
- ・当院では基礎医学系との共同研究も充実しており引き続き継続し、単球由来 iPS 細胞を用いた新しいアレルギー・免疫治療を探索していく
- ・当院では気管支喘息やアレルギー性鼻炎などの典型的なアレルギー疾患から、難治性疾患である間質性肺炎も得意としており診療科を横断して最新の知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく